

平成26年度第2回奈良県社会教育委員会議(概要)

[報告書]

- 1 日 時 平成27年2月9日(月) 14:00~16:00
- 2 場 所 奈良県中小企業会館 中会議室A
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち、飯田喜代視 今井篤子 大寺和男 岡田龍樹 杉澤茂二 高柳忠夫 谷本忍 辻村里美 中島祐子 中西達 福田裕光 宮坂靖子(敬称略) 12名
- 4 内 容 (1) 開会 あいさつ 奈良県教育委員会教育長 吉田育弘
(2) 委員紹介
(3) 議事
①平成27年度社会教育団体に対する補助金の交付について
②奈良県の地域課題と社会教育について
③今後の奈良県社会教育委員会議の進め方について
④奈良県の社会教育推進の重点について



- 5 協議の内容 (④奈良県の社会教育推進の重点について)

「社会教育とは、社会(地域課題の解決)のための大人の学びを創造していくことである。」と岡田委員より提起があり、それをうけ、奈良県の推進の重点として、多岐にわたる地域課題からどの課題を取り上げテーマとしていくかについて協議を行った。

(少子高齢化)

- ・**子育て**、しきたり、きまりの継承に関わって「高齢者と若いお母さんのつながり」をテーマにしてはどうか。

(子どもの貧困・教育格差)

- ・**子ども**の貧困問題は、自己責任ではない。社会の問題である。
- ・家の中で共に作業する機会が減少し、家族の絆、連携を体得する機会が少なくなっている。

(ネットワーク地域のプラットフォームづくり)

- ・今まで、社会教育において、**子育て**中の母親など若い世代へのアプローチが少なかった。
- ・**子ども(学校)**をベースに、母親のつながりを作るのがよい。
- ・社会教育は、小学校区単位で、地域課題の解決を進めるのがよい。

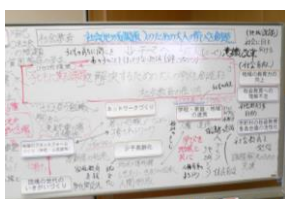


(地域の教育力の向上)

- ・昔は、地域には、「**あの子**、あの家を放っておけない」という意識があった。地域で、ネットワークづくり、プラットフォームづくりを行い、持ちつ持たれつ^①の関係を作っていく必要がある。
- ・**子ども**を支える地域の仕組みづくりが必要。テーマを**子ども**にして、地域で課題を解決していく。

(学校・家庭・地域の連携)

- ・**子ども**の教育は、母親だけではなく、父親や地域の様々な人も担うものである。地域によっては、「父親の会」というものが組織され、会合を重ねる中でコミュニケーションをとり、その中で出てきたアイデアを生かし、**子どものこと**を通して地域づくりを行っているところもある。



(社会教育委員会議の役割)

- ・来年度本格的に議論をしていく上で、社会教育委員会議のメンバーの選び方を考える必要がある。
- ・さらに絞って議論をしていくために、「奈良県として社会教育がどうあるべきか」を、県教育委員会事務局として示してほしい。

来年度からの社会教育委員会議は以下のテーマで議論を重ね、報告、提言書等にまとめる。

奈良県の社会教育の推進の重点

～子どもに関する課題を解決するための大人の学びを創造する社会教育の在り方～